朝来市介護保険事業計画等審議会（第３回）　議事録

会議の名称	朝来市介護保険事業計画等審議会（第３回）
開催日時	令和８年 10 月 16 日（金）13：30～15：15
開催場所	朝来市保健センター　多目的ホール
会長名	馬庭　幸二
出席委員	馬庭 幸二、上田 浩子、足立 崇宏、上谷 惠子、森　里加子、渕本 巳紀代、足立 陽子、藤本 昌代、白瀧 一樹、西垣 佳生、
欠席委員	前田 恵利、中山 隆人、藤本 智也、田所　昌也
アドバイザー	中野　裕貴(長寿の郷)
事務局	大石 哲也(健康福祉部長)、馬袋 真理子(健康福祉部次長)、足立 里江(地域包括支援センター所長)、岡口 徹也(高年福祉課長)、山田 梨恵(高年福祉課課長補佐兼介護保険係長)、山根 麗奈(高年福祉課主査)
㈱ぎょうせい	井澤 茉宥（営業担当）、山川 浩一（研究員）

会議の経過、議題及び結果

１．開会　　…岡口課長

２．あいさつ　　…馬庭会長

（審議会の成立の確認）

委員出席 10 名で朝来市介護保険計画等審議会条例第６条第２項の規定により成立

（議事録署名人の指名）

馬庭会長、上谷惠子委員

３．　審議事項等

⑴高齢者保健福祉計画及び第 10 期介護保険事業計画素案（前半）について（資料１）

…（事務局㈱ぎょうせいより資料１について説明）

【質疑応答】

（委　員）全国との比較のなかで朝来市特有の現状を踏まえて分かりやすく記載したほうがよいのでは。

（事務局）アンケート調査からの課題や、第４章以降の具体的な記載の中で充実させていきたい。

（委　員）メディア等で報道されている全国的な状況よりも朝来市の方が高齢化等を取り巻く状況等が進んでいることを市民の方に分かるような記載が必要と感じる。

（事務局）２ページで記載をしているところ。高齢者人口について全国的には増える局面だが、朝来市では高齢者人口は減少していく反面、後期高齢者人口は増えていく。実情を分かりやすく記載していきたい。

⑵地域包括ケアシステム推進会議等からの報告（資料２）…（事務局より資料２について説明）

【質疑応答】

（委　員）低栄養・貧血が県内ワースト１というデータはどこから参照されているのか。

（事務局）県から提供された後期高齢者医療データによる。病名等に基づく指標であり、低栄養そのものを直接測定したものではない。計画等への記載については、指標の内容を確認した上で協議していきたい。

（委　員）根拠づけには配慮したほうがよいと思う。

（委　員）配食サービスの現状、支援の金額はどうなのか。

（事務局）詳細データは2026年度に収集予定であり、利用者の状況や配食事業者の実態を把握した上で、支援制度等について先進事例やご意見を参考に協議していきたい。配食については、配食事業者への支援だけでなく、買い物や注文書の記入、商品の受取り、見守り等を支援する人材の養成や地域活動との連携も検討していきたい。
（委　員）配食サービス事業者への多角度的な支援も必要だと感じる。
（事務局）配達可能エリア等の問題もあるが、注文書記入の支援等つなげるための施策を検討していきたい。
（委　員）配食ボランティア等の規模感はどうなのか。
（事務局）終活サポーターの育成実績から、食に関するサポーター養成等を関係機関と協議しながら検討していきたい。現時点で具体的な人数や実施内容が決まっているものではない。
（委　員）全体感をイメージしながら予算等を考えていく必要がある。
（事務局）社会福祉協議会、配食事業者、栄養士会等と連携し、地域のニーズと既存の資源をつなぎながら実現したい。。
（委　員）社会福祉法人としてもこれから検討していきたい。
（委　員）訪問型サービスCについて、市内で対応できる専門職の状況等はどうなのか。また、配食サービスについては総合事業に組み込んではどうか。
（事務局）専門職については53事業所、セラピストについては21名いらっしゃる。訪問型サービスCについては、リハビリテーション専門職等が本人の自宅を訪問し、生活上の困りごとや本人の希望を確認した上で目標を設定し、短期集中的に支援するモデル事業として検討している。市内の専門職の状況については、事業所の配置状況や通常業務との調整を踏まえ、モデル事業を通じて実施可能性を検証していきたい。配食サービスについては、通所型サービス等も含め、適正な形を検討していきたい。
（委　員）選択肢は多いほうがよいが、どのように地域資源を増やしていくのか。
（事務局）訪問型サービスCでは、本人が望む暮らしや生活上の目標を確認し、自己選択を尊重しながら、運動、外出、交流、趣味、家事、家庭内の役割等の実現を支援したいと考えている。生活支援コーディネーター等とも連携し、本人の希望に合う地域活動や生活上のつながりをつくっていきたい。
（委　員）利用者にとって不利益も出てくると思うので、総合事業を推進していく理由を明記したほうがよいのではないか。
（事務局）生活機能が低下してから介護保険の申請につながるのではなく、より早い段階で介護予防につながる人を増やすことが、総合事業を推進する理由の一つと考えている。表記についても検討したい。
（委　員）従前相当のサービス利用はそのままできるのか。
（事務局）国の示す方針に基づいて実施していくが、状態に応じて従前相当サービス、短時間型のサービス、訪問型サービスC等を使い分ける方向で検討している。既存利用者の扱い、経過措置、サービスの併用条件等について整理し、分かりやすく説明していきたい。
（委　員）すそ野を広げていくなかで、従前相当のサービスを希望通り受けられない方が一定程度出てくると思うので、説明は必要。

（事務局）現在の利用者がそのまま利用できるかどうか、サービス内容が変わる可能性があるか等について、丁寧に説明していきたい。

（ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）県内の自治体で開始されているところは説明を丁寧にされている。

（委　員）従前相当サービスと総合事業との併用等はどうなのか。

（事務局）短期集中で生活機能の改善を目指すサービスと、継続的に利用するサービスとでは目的が異なるため、併用の可否や条件について、利用者に分かりやすく示せるよう整理して利用者に分かりやすく説明していきたい。

（委　員）認知症の方を地域が受け入れていくことが必要だと思うので、住民の方向けの普及・啓発が大切になると感じる。

（委　員）住民の方が感じる課題等はどうなっているか。

（事務局）様々な施策展開をしているところ。次回の会議では詳細をお示ししたい。

（ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）新しい認知症観の普及について、全国的にも取組みがされているところ。本人の声を支援や施策につなぐ仕組みづくりが入口にもなりえるので、しっかりとサイクルを回せる仕組みづくりが重要。

（事務局）全部つながっているというイメージ図等を検討したい。向こう三軒両隣が大事なポイントとなるので、計画書にも分かりやすく反映したい。

（委　員）介護保険料の負担を抑えることも検討していただきたい。

（事務局）報酬改定等で上がる方向だが、基金の活用等で極力抑制していきたい。

（事務局）外国人材の雇用状況はどうか。

（委　員）当法人では 100 名を超えている。

（委　員）当法人では 10 名ほど在籍している。

（委　員）食事提供業者でも人材確保が難しい状況になっている。

（委　員）外国人材の受入れについては、在留資格更新の手数料など、雇用する側にも負担がある。また、地方や過疎地域では受入れ制度の選択肢が限られ、費用がかかっても制度を利用せざるを得ない事業者もあるため、地域の実情を踏まえた支援を検討してほしい。

（事務局）外国人材の受入れに係る事業者の負担や、調理・配食を含む介護関連分野の人材不足について、今後の施策検討の参考とする。

４．　質疑応答、意見交換…特になし

５．　その他

⑴次回会議日程の協議等

（事務局）次回は 12 月３日（木）13：30 から 15：00 を予定している。時期が来たら改めて日程を御案内する。

６．　閉　会　　…西垣副会長